

笛の免橋跡 1948年(昭和23年)に周辺の地名をとり、笛の免橋と命名されました。その後1951年(同26年)のルース台風で流され、跡形が残っています。

八幡中央橋 東の日ノ木団地と西の観音台団地を結ぶ都市計画線として、寿老地中地線の橋が1991年(平成3年)に架けられました。

【五日市地区の橋】

落合橋 1970年(昭和45年)に、旧木橋からコンクリート橋に改築されました。この橋は水害のため何度も流失し、現在の橋は7代目です。名称は八幡川と石内川とが合流する(落ち合う)地点で、落合橋と呼ばれています。

新落合橋 県道の石内バイパスとコイン通りを結ぶ橋として、1996年(平成8年)7月に完成しました。上流にある落合橋に対して、この橋は新落合橋と命名されました。

舩田橋 橋のもとに舩田という民家があり、その名をとり舩田橋と命名されました。

美鈴橋 1971年(昭和46年)8月に西広島バイパス(庚午北～波出石交差点)が開通し、バイパスが通る橋として建設されました。橋の名前は架けられた美鈴園の地名をとって命名したものです。

三島橋 1958年(昭和33年)に会社専用橋として建設しました。1963年(同38年)に三島食品の社名を橋の名称としました。この橋は公橋ではなく私橋です。

泉橋 この橋は造幣局の専用橋です。1945年(昭和20年)に現在地に造幣局広島支局ができ、皆賀に設置した工業用水の取水施設である西山水源地との連絡用にこの橋(正式名称は西山連絡橋)ができました。造幣局は財務省に属しているので、橋もその名称となっています。名前の由来は「泉布」(銭が流通する意)の故事にちなみます。



泉橋

皆賀橋 昔は木橋で、1939年(昭和14年)頃までは一本橋と呼ばれていたようです。昭和20年代に大きい木造橋に改修され、1970年(昭和45年)には現在のコンクリート橋になりました。皆賀橋の名前は当地の地名によります。1973年(同48年)には上流側へ歩道橋が併設されました。



昭和48年頃の旧皆賀橋

駅前橋 この橋は都市計画街路として、駅前線の幹線道路敷設の際に建設されました。皆賀地区の当時桃山と呼ばれた山を土地区画整理で開発し、当初はこの宅地造成地を昭和台団地と呼んでいました。団地から五日市駅前を結び、駅前線の橋ということで駅前橋と名づけられました。

八幡橋 西国街道＝旧山陽道が通る橋で、江戸初期には少し北に架けられていました。その後現在の場所に移設され、1929年(昭和4年)にコンクリート橋にするとの記録が残っています。木造橋が水害で流され、現在の橋桁に改築されたようです。橋の名前は八幡川の名前にちなみます。

八幡川橋 国道2号線が通るコンクリート橋で、1933年(昭和8年)の国道敷設の際に完成したと考えられます。橋名は川の名称を使用したと思われます。

【石内川の橋】

住吉橋 利松地区の小字名によります。むかし住吉の神が勧請されたと思われます。

高井橋 高井地区の石内川に架けられた橋です。ここは旧地藏通りが通っています。

門久保橋 利松地区の小字名で、近く地の隅＝門がくぼ地となることによります。

沖田橋 高井地区の小字名によります。平地の沖合の田んぼをいいます。中地地区に架る橋で、中区のだるま某と呼ばれる業者の名前によります。

車田橋 現在の橋の傍らに、車田(車状に植付ける田)と呼ばれる民家がありました。

田中寺橋 田中寺の東の石内川に架っています。この付近の川床から、太古の埋没林が発掘されました。

八幡川流域の巨樹

五日市 奈々園:旧山陽道(西国街道)の松並木
現在4本が残っています。

光輝寺:誓いの松・アイクロ松・大樹群
境内にひときわ盛えます。

石内 白山八幡神社:スギ・大樹群
スギや杜若は御神体となっています。

浄安寺境内:イチョウ
浄安寺の境内に盛える雄株のイチョウです。

参考文献 「いつかいちの樹木」
五日市公民館・いつかいち郷土史サークル 1990年



誓いの松



白山八幡巨樹

八幡川の伝説

関・八幡川
歴史探訪
ガイドブック

あまんじゃく

むかし、『あまんじゃく』と呼ばれる男の子がおりました。親が右と言え左と言え、上と言え下と言う始末で、親はほんとに困り果てていました。

年月が過ぎ父親は自分の死が近づき、「わしは、地元の山に葬ってほしいが、息子に言ったらその通りにしてくれんじやろう。」と考え、父親は息子に「わしが死んだら、つくねが島へ葬ってくれ。」と言って間もなく死にました。

あまんじゃくの息子はこれまでことごとく親に逆らってきたことを反省し、「おやじの最後の願いだけは、かなえてやろう。」と思って、父親をつくねが島に葬りました。つくねが島には、その墓が今もあるそうです。



用水路の付け替え

五日市村の田んぼへ川の水を引くために、今の八幡の寺田というところに水門があります。

ここから水路を造っていたとき、五日市の村人が願っていた水路とは違っていたそうです。

村人は水路の変更を嘆願しましたが、聞き入れられませんでした。ところがある日この水路が一夜にして、村人が願っていた方向に流れるようになったということです。



八幡川の付け替え

むかし皆賀は水はけが悪く、水が長く留まることから水長と呼ばれていました。

今から350年ほど前に、山を切って現在の流れに変えたそうです。川の流れが変わって、水長の水の流れがよくなり、村人の皆が喜んだことから、皆賀と名を改めたと言われています。



百石

石内の湯戸というところに、「百石」という地名があります。

この名はむかしこの辺りまでが、入り江で潮が満ち、対岸に渡るために数百の飛び石があったことから、この地名がつけられたそうです。

むかしは瀬戸内海の水位が今より数メートルも高かったことの証拠です。



誓いの松

光徳寺山門前があるクロマツは、450年以上の樹齢を誇っています。

むかし寺僧の犬忍は永明院で、弟子を慕い武道を指導していました。備後国鞆河内村の石井源蔵、半蔵兄弟を助け、1678年(延宝6年)に厳島仁王門で仇討ちをさせました。その時に仇討ちを誓い、山門前に植えたのがこの老松で、後に人たちに「誓いの松」として呼ばれています。



八幡川とくらし

緑・八幡川
歴史探訪
ガイドブック

八幡川の水は、生活用水や農業用水や工業用水を始め、上水道の整備により広く供給され、下水道の整備も上水道設置地区とほぼ同様に整備され、住民の都市生活が保たれています。

地区の世帯数と人口

年(西暦年/和年号)	石内地区 世帯数/人口	八幡地区 世帯数/人口	五日市地区 世帯数/人口	事項 合併の足跡
1889年(明治22年)	483世帯 2,281人	555世帯 2,216人	942世帯 3,755人	町村制施行で3 町村が誕生する
1955年(昭和30年)	435世帯 2,090人	664世帯 3,090人	2,822世帯 11,548人	合併し五日市町 の各地区となる
1985年(昭和60年)	2,943世帯 9,996人	7,899世帯 26,278人	15,601世帯 44,672人	広島市に合併し 佐伯区となる

1889年(明治22年)に江戸時代から続く村落は、町村制施行により互いに合併しました。1955年(昭和30年)に河内村・石内村・八幡村・観音村・五日市町が合併し、五日市町となりました。1985年(同60年)に広島市に合併し、佐伯区として現在に至っています。かつては人口日本一の町は合併の後に、広島西郊のベッドタウンとして発展し、現在では人口が13万人に達しています。

井堰と用水路

八幡川の本流や支流の石内川に、川を堰き止め田へ水を引くために、井手が造られました。代表的な「五日市用水路」を始め、1671年～1819年の関係文書によると、用水路の開設状況から3地区では、井手数が56で満数が14となり、かんがいの状況がわかります。現在井手には水門が取り付けられ、用水路の満は水路と暗渠により延び、所により分水の施設があります。



五日市用水取水口

市街化した住宅地区では生活污水が流れ、ヘドロが堆積し悪臭を発生していましたが、近年行われた下水道の敷設によっていくらか以前の状態に戻りつつあります。

地区名	井手数	満 数
石 内 地 区	42	0
八 幡 地 区	8	7
五 日 市 地 区	6	7

1671年～1819年の用水路
出典:「五日市町誌」中巻

産業の変遷

石内の産業 明治時代には農業のほかに、養鶏・養蚕・花き園芸・林業が盛んで、柿・繭・炭などが生産されました。明治末期には製粉所や製菓所のほかに、鍛冶屋がありました。昭和に入ると製粉所で牛乳販売がおこり、石屋も原田の旧道分岐点に沿い立地しました。

八幡の産業 明治期から大正期には住民の生業の9割が農業で、昭和初期にかけて菓製品や養蚕や養鶏の副業が盛んに行われました。明治末期には池田酒造(今の八幡川酒造)や醤油醸造所が旧道沿いに創業し、織座や鍛冶屋のほか花火工場や胡粉工場がありました。1895年(明治28年)に中地に八幡銀行が創業し、1912年(同45年)に芝居小屋の公衆館が開設され、昭和に入り製材所や表具屋や畳屋が創業し、商店街が賑わいました。



八幡川酒造

八幡川とくらし

廣・八幡川
歴史探訪
ガイドブック

五日市の産業 明治時代には米麦を主体とした農業と、水産業のほか養蚕も行われました。明治末期には清酒や醤油の醸造がみられ、鋳物工場の製品は遠く朝鮮半島へ積み出され、広島商業銀行や村上銀行も創業しました。大正末期に製材所や石灰工場やセメント工場が創業し、戦後に至り五日市市街地と楽々園周辺では、数多い商品が販売されました。五日市港では北国干鰯が商われ鋳物工場の積出しで、海老館・朝日館・神明館の保養所が開設されました。戦中・戦後にかけて八幡川河口に製菓工場(後の明治製菓)が創業し、造幣局広島支局も現在地で貨幣の製造を開始し、ともに八幡川の水が使用されています。

現在の産業 製造業は事業所数からみれば、石内・八幡・五日市と北に片寄っていますが、これは山陽自動車道による立地条件でしょう。従業員数は五日市に集中し、交通機関の発達した地区に近在から集まっています。この現象は商店経営にもあらわれ、都市化とともにやはり五日市に集まっています。新興住宅地から脱却し、都心へ集中するのです。

地 区	事業所数	従業員数
石内地区	53	70
八幡地区	43	120
五日市地区	34	419

製造業の事業所数と従業員数(金属製品・食料品・家具・電気機器)
出典:2000年(平成12年)佐伯区役所資料

年(西暦年/和年号)	石内地区 商店数/従業員数	八幡地区 商店数/従業員数	五日市地区 商店数/従業員数
1960年(昭和35年)	219 6,556	50 52	12 33
1970年(昭和45年)	432 1,160	59 105	12 27
1990年(平成11年)	161 749	226 1,987	652 4,867

商店数と従業員数
出典:佐伯区役所資料

八幡川の活用

廣・八幡川
歴史探訪
ガイドブック

上水道の整備 1927年(昭和2年)に、給水人口1,500人を対象に五日市町簡易水道組合が発足し、1930年(同5年)には五日市町営水道に移管され、給水人口5,000人となりました。また1955年(同30年)に竹之内浄水場を新設し、給水人口12,000人に跳ね上がり、五日市地区の水道供給は完成しました。1961年(同36年)に給水人口25,000人を目標に、北原浄水場や東迫配水池を新設しました。1976年(同51年)に河内地区に白ヶ瀬浄水場が開設され、佐伯区・廿日市市・大野町に飲料水を送れるようになりました。広島県の管理施設で、一日に67,000tで17万8千人分もの上水の確保ができます。寺田浄水場が1975年(同50年)に新設され、上水道網は完備されました。1981年(同56年)に魚切ダムが開設され、洪水調整・上水道用水・かんがい・発電などの多目的に利用されています。

1985年(同60年)に竹之内・寺田の各浄水場は、広島市合併時に休止されました。新興住宅団地は独自の配水施設をもち、現在は魚切ダムや弥栄(ヤサカ)ダムからの送水も含め湯水の心配は解消されました。



北原浄水場

下水と排水 佐伯区内の雨水排水施設は太田川処理区に属し、現在4箇所のポンプ場稼働しています。下水処理は西区属地区の広島市西部浄化センターで、1981年(昭和56年)から西区・佐伯区・安佐南区の10,191ヘクタール、574,000人を対象に、分流式で処理されています。処理方法は標準活性汚泥法に基づいて行われ、広島湾へと放流されています。

ポンプ場名	排水処理区	排水面積(ha)	排水量(ml/分)	稼働年
吉見排水	吉見処理区	95.2	694.0	1982年(昭和57年)
海老橋	中央処理区	179.4	1,213.0	1978年(昭和53年) 2000年(平成12年) 増設
中央北	中央北処理区	71.4	454.0	1991年(平成3年)
美の里	美の里処理区	41.4	305.0	1972年(昭和47年)

資料 広島市佐伯区役所水道課・下水道課

八幡川の今日

八幡川
歴史探訪
ガイドブック

石内地区の地名

旧地区名

半坂 ハンザカ 原田 ハラダ 平岩 ヒライワ 上中 カミナカ 下中 シモナカ
横毛 カジケ 神原 カンバラ 上沖 カミオキ 下沖 シモオキ 瀬戸 ユド

新地区名

五日市町大字石内

(イツカイチチュウオオアザイシウチ)

五月が丘

(サツキガオカ)

地区東部の大茶臼山のふもとに拓かれた住宅団地で、サツキの自生地による地名由来は不詳です。現在は団地全体に市街地が展開しています。

藤の木

(フジノキ)

石内地区と上小深川地区にわたり拓かれた住宅団地で、上小深川地区に藤川が石内地区に横木の大字地名があり、合成地名とも考えられます。

八幡地区の地名

旧地区名

利松 トシマツ 寺田 テラダ 中地 ナカジ(中須賀 ナカスガ 寺地 テラチ)
口和田 クチワダ 高井 タカイ 保井田 ホイダ

新地区名

利松

(トシマツ)

一〜三丁目

八幡

(ヤハタ)

一〜四丁目

八幡東

(ヤハタヒガシ)

一〜四丁目

城山

(ジョウヤマ)

二丁目

八幡が丘

(ヤハタガオカ)

寺田地区と保井田地区にわたる住宅団地で、八幡地区の丘陵部を表わします。

藤岡が丘

(ヤウシガオカ)

保井田地区と倉重地区にわたる住宅団地で、保井田東郷堂の故地にちなみます。

美鈴が丘

(ミスズガオカ)

高井地区と西区山田地区にわたる住宅団地で、八幡東地区の美鈴園団地から見て東丘陵部を表わします。

美鈴園

(ミスズエン)

こちらからの鈴ヶ峰は富士の形状となり、美しい鈴ヶ峰の意味とも思われます。

五日市地区の地名

旧地区名

城山 ジョウヤマ 地毛 ジゲ 濱出石 ハテイシ 落合 オチアイ 湯 アゲ
古川 フルカワ 瀬戸の川 セドノカワ 五日市町 イツカイチマチ
五日市港 イツカイチミナト 海老塩浜 カイロウシオハマ 海老山 カイロウヤマ
海老園 カイロウエン 桑々園 ラクラクエン 美の里 ミノリ 東原 ヒガシハラ
旭園 アサヒエン 吉見園 ヨシミエン 藤原園 トウスイエン 皆賀 ミナガ

新地区名

五日市

(イツカイチ)

一〜七丁目

五日市駅前

(イツカイチエキマエ)

一〜三丁目

五日市中央

(イツカイチチュウオウ)

一〜七丁目

城山

(ジョウヤマ)

一丁目

皆賀

(ミナガ)

一〜四丁目

藤原園

(トウスイエン)

吉見園

(ヨシミエン)

旭園

(アサヒエン)

海老山町

(カイロウヤマチョウ)

海老山南

(カイロウヤマミナミ)

一〜三丁目

海老園

(カイロウエン)

一〜四丁目

桑々園

(ラクラクエン)

一〜六丁目

新宮苑

(シングウエン)

通称新宮山が住宅地に開発され、五日市小学校や五日市公民館などがあります。

昭和台

(ショウワダイ)

皆賀地区の鈴ヶ峰山麓が住宅地に開発され、年号により団地名となりました。



五日市駅

公民館・図書館

施設名	所在地	電話番号
五日市公民館	新宮苑11-14	082-922-8333
八幡公民館	八幡三丁目23-22	082-928-0207
佐伯区図書館	五日市中央六丁目6-1-10	082-921-7560